

広島大学における融合研究報告

所属: 創薬科学研究科基盤創薬学専攻

学年: 博士後期課程 3 年

氏名: 岩田 萌

出張先

広島大学基礎医学研究棟ウイルス学研究室

出張期間

2021/09/05～2022/03/31

概要

ダブルメンターである広島大学ウイルス学研究室の入江崇准教授のご指導のもと、融合研究を行った。

所感

今回の2度目の融合研究派遣では博士論文のデータ取得のため、広島大学ウイルス学研究室にて、前回の派遣で作出した新規ウイルスの特性を解析しました。

派遣期間中は、ウイルス再構成手法を体得し、特性のうちウイルス産生能を比較しました。所属研究室では大臣許可のないため実行できなかった、プラスミドからウイルス粒子の再構成を経験し、知見を得ました。ウイルス産生能実験では、何度も失敗した時、工程をひとつひとつ見直しトラブルシューティングするすべを丁寧に指導していただきました。はじめの頃は、うまくいかないことが多かったですが、徐々に手技のコツをつかみ安定したデータを出せるようになりました。ダブルメンターの入江崇准教授と川端涼子さんには、実験結果の共有と、ディスカッションをしていただきました。名古屋大学での他の実験についてもディスカッションし、新たな角度から様々な助言をいただいたことで、分子生物学的な方面の知見を得られました。また、実験以外に日常生活にも手厚くサポートしていただき、充実した派遣期間を過ごすことができました。今



医学部基礎医学研究棟



研究室背景

回の派遣において、異なる研究室で長期間研究することで、自立心と生活から研究までを整理する自己管理能力を鍛えることができました。GTR 制度により長期間の派遣を支援していただいた今回の経験は、将来大きな糧になるものだと思います。最後に、遠方から幾度もお気遣いいただいた担当教員の小坂田文隆准教授、長期にわたる融合研究のサポートしていただいた GTR の方々、研究から私生活にわたってお世話になった入江准教授以下研究室の方々に感謝申し上げます。

【様式】

・ A4 用紙に 2 枚で作成してください。レイアウトは自由です。バランスよく記載してください。

・ フォントサイズ：10～11

・ 記載内容

滞在中の写真（本文全体の 1/4 以内を目安にしてください。）、出張先、出張期間、出張目的、概要、所感等

【提出】

提出期限：帰国後 1 週間

提出先：メールに Word および PDF ファイルを添付の上、GTR 学生支援室（gtr@itbm.nagoya-u.ac.jp）までご提出をお願いします